

税金がくれた安心と笑顔

佐世保市立光海中学校 3年 田淵 美来

私には障害のある弟がいます。言葉を話すことが難しく、毎日の生活の中でさまざまなサポートが必要です。弟が生まれた頃は、障害のこともよく分からず、福祉という言葉も自分とは遠いもののように思っていました。しかし、成長するにつれて、弟のまわりにはたくさんの人の支えがあり、その多くが「税金」によって成り立っていることを知りました。

弟は現在、療育施設や児童発達支援に通っています。そこでは、専門の先生が弟の成長に合わせた支援をしてくれます。例えば、体の体幹をきたえる理学療法士による訓練だったり、作業療法士による手先の訓練や体の使い方を学ぶ運動遊びなどです。弟はその時間をとても楽しみにしていて、言葉ではうまく伝えられなくても、そこに行く日は朝からうれしそうな表情をしています。安心できる場所があることで、家でも明るい表情を見せることが増えました。私たち家族にとっても、その時間は大切な支えです。こうした施設の運営には、私たちが普段支払っている税金が使われていると聞き、「税金って、誰かの暮らしを支えるためにあるんだ」と実感しました。

「税金はみんなで支え合うしきみ」だと学びました。税金があることで、道路や学校、病院が整備され、災害が起きたときには支援金や復旧のための費用にも使われます。中でも、弟が利用している施設のように、障害のある人やその家族を支えるための制度に税金が使われていると聞き、「税金は、私たちの暮らしの安心をつくる土台なんだ」と思うようになりました。

もし税金がなかったら、弟のような子どもたちはどこで安心して過ごせばいいのか、どこに頼ればいいのか、と考えると、とても不安になります。弟が安心して過ごせる居場所があることで、私も安心して学校に通うことができます。税金は、直接自分に見える形で使われていなくても、まわりの大切な人を支えてくれる、大事な存在だと感じます。

私は将来、福祉に関わる仕事がしたいと考えています。弟と過ごす中で、障害のある人にもその人らしい生活があることで、そしてその生活を支える社会のしきみが必要であることを知りました。そのしきみの一つである「税金」はただの支払いではなく、「みんなで支え合う」という気持ちのあらわれなのだと思います。

これから大人になり、自分も税金を納める立場になったとき、税金の向こうにいる誰かの暮らしを思いながら、社会に貢献していきたいと思います。そして、今はまだ子どもですが、税について正しく理解し、必要なところに使われているかに关心を持ち続けることが、やさしい社会をつくる一歩になると信じています。